

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ONEPLAY.GIFTED久里浜教室		
○保護者評価実施期間	2026年1月1日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59 (回答者数)	40
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別ニーズを踏まえた支援計画と、計画に沿った一貫した支援 (項目11～23・保護者⑤～⑩)	アセスメント、支援計画の作成・共有、チームでの活動立案、個別活動と集団活動の組合せ、記録・モニタリングまで一連の支援プロセスを整えている。従業者評価では項目11～14、16～20、22・23が6名全員「はい」。保護者評価でも㉗「ニーズを分析した支援計画」は40名中38名、㉘「計画に沿った支援」は37名が「はい」であり、計画性のある支援が高く評価されている。	標準化されたアセスメントの活用をさらに進め、日々の行動観察と組み合わせで支援成果を定期的に確認する。活動のねらい・こどもの変化・次の支援方針を保護者へ分かりやすく伝え、支援計画と実践のつながりをより見える化する。
2	職員間の連携と関係機関との情報共有を基盤としたチーム支援 (項目17・20～27・31)	活動プログラムをチームで立案し、支援前の打合せ、記録、モニタリングを通して支援内容を共有している。項目20「支援開始前の打合せ」、24～27「関係機関との会議・連携・移行支援」、31「児童発達支援センターとの連携」は6名全員「はい」であり、園・相談支援事業所等との連携を含めた支援体制が強みとなっている。	支援終了後の振り返りも定型化し、参加できない職員が後から確認できる記録方法を整える。関係機関との連携事例や移行支援の実践を職員間で共有し、担当者に依存せず教室全体で再現できる支援ノウハウとして蓄積する。
3	安心して通える環境と、丁寧な説明・相談対応による保護者との信頼関係 (項目33～43・保護者⑫～㉔・㉖～㉙)	支援計画の説明・同意、面談や相談対応、情報発信、個人情報への配慮などを継続している。保護者評価では㉙「支援計画の説明」は40名全員、㉚「安心感をもって通所」は39名、㉛「事業所の支援に満足」は37名が「はい」と回答。生活空間の清潔さも㉜で39名が「はい」であり、安心感と説明の丁寧さが高く評価されている。	送迎時・面談・通信等を組み合わせ、保護者がこどもの成長や支援の意図を継続的に確認できるようにする。相談機会や家族向け情報を定期的に案内し、保護者から得た意見を支援・業務改善へ反映した結果も共有する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数に応じた活動スペースの確保と環境調整 (項目1・3・保護者①～③)	従業者評価の項目1「利用定員とスペース」は「はい」3・「いいえ」3で、「満員だと少し狭い」との意見がある。保護者評価①も「はい」33名に対し7名が「どちらともいえない」。構造化についても従業者評価項目3で1名が「いいえ」であり、利用人数や活動内容によって環境面の課題が生じることが要因と考えられる。	利用人数・活動内容に応じたゾーニング、少人数化、時間差での活動等を組み合わせ、安全な動線と十分な活動量を確保する。視覚的な手掛かりや家具配置も定期的に見直し、保護者・職員の意見を環境改善に反映する。
2	地域交流・家族支援の機会と取組内容の見える化 (項目32・34・39・保護者⑪・⑭・⑯)	従業者評価では項目32「園等との交流」が「はい」3・「いいえ」3、項目34「家族支援プログラム」が4・2。保護者評価⑪の地域交流は「はい」22名、11名が「わからない」、⑯の保護者・きょうだい交流は「はい」18名に対し13名が「わからない」であり、実施機会だけでなく取組が十分に認知されていないことも課題と考えられる。	園等との交流や地域活動は、こどもの特性と保護者ニーズを踏まえて無理のない形から計画する。保護者会、家族向け研修、きょうだい交流等についてニーズ調査を行い、実施予定・参加方法・実施結果を通信やSNS等で継続的に周知する。
3	安全管理手順・緊急時対応の職員間統一と周知 (項目45・47～50・53・保護者㉓～㉖)	従業者評価では項目45「各種マニュアルの策定・周知・訓練」が「はい」2・「いいえ」4、項目48「食物アレルギーへの医師指示に基づく対応」は3・3、項目47も4・2であった。項目53では身体拘束について「分かりません」との記載もあり、安全・緊急時対応の手順が全職員に十分浸透していない可能性がある。一方、保護者評価㉓～㉖は35～37名が「はい」で、保護者側の安心感は比較的高い。	事故・緊急時・防犯・感染症・服薬・てんかん・アレルギー・身体拘束等の手順を一覧化し、年間研修・訓練計画に沿って確認する。特にアレルギー対応は対象児の把握、医師指示書の要否、緊急時対応を統一し、研修後に職員の理解度を確認する。安全計画や訓練内容は保護者にも定期的に周知する。